

聖化

'91.10.10

日本聖化交友会機関誌

No. 12

聖キリストへの渴望

フリー・メソジスト桜ヶ丘教会牧師

野田 秀



主イエス・キリストの贖いにより救われた者が聖なるものを求めることは、最も本質的で、自然、かつ当然のことと言わねばなりません。ところが、昨今はその求めを鈍らせるような現実がいろいろあることに、ふと気づかされて、我とわが身に警戒を与えられます。

早い話が、教会のポストに運ばれて来る様々な郵便物に表れているように、現代の教会が対応して行かなければならない分野が年々多様になり、あつちにもこつちにもと窓を開いている間に、聖なるものを求める窓も、それらの中のほんの一つに過ぎないようになりかねない状況にあります。

若い人に集会の感想を聞えば、楽しいか、面白いかといったレベルでしか答えが返って来なかったり、集

会の評価が、「盛り上がった」かどうかでしか計られなかったり、全体に、表面的、感覚的、一時的に満足することと良しとする世の風潮が、クリスチャンにも影響しているように思えます。

テレビのチャンネルの切り替えに代表されるような多様な選択の自由が許された生活になれた人々には、ただ一つのことを真剣に求める姿勢は、なじまないものになってしまったのでしょうか。「ひたむきに」とか、「ひたすら」とか、「一途に」といった種類のことばが、教会の中でもあまり聞かれなくなつたような気がしてなりません。これもまた、聖なることへの求めを、いつの間にか鈍らせている現実の一つではないかと考えます。

このような現実が私たちの周囲に

顕著であればこそ、贖われた者は、聖なる者とされることをただ一つの目標として、それを渴望すべきでありましょう。教会の立場がそうだからではなく、そこに立て籠もって、かえって自負心のとりこになるのもなく、聖書がそれを明らかにしている道なればこそ、ひたすらにそれを求めたいものです。

全国的に新しく編成されつつある日本聖化交友会が、その意味においても大きく用いられ、さらに前進することを期待いたします。今年も開かれる東京においての「聖化大会」のご案内も、そろそろお手元に届くことでしょう。それが様々な案内の中の一つに終わることなく、私たちが最も大切にしなければならぬ道への、神の招きとして受け止められますように祈ります。

聖化の恵みを慕い求めて



造り変えられていく恵み

日本基督教団浅草橋教会牧師

黒木 安信

「ホーリネスの本領」は、「栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく」(IIコリント三・18)との約束にもうかがえるように、「変えられる」という一点にあるともいえます。

実践はこの「心と生活」の潔きをぬきにしては不毛であり、また空しいことです。

終わったと見ることができるとまでいわれるほどです。

た(出三三・11) ヨシユアの姿に、その秘密を見る思いです。

ウエスレーはキリスト者の完全について、「完全とはキリストの心を心とし、キリストが歩まれたように歩むこと。……内的にも外的にも、心と生活の一切を神にささげることである」と教え、その如く生活しました。

ヨシユアは年若き日より、モーセの「従者」としてモーセに仕えて行きました。はじめて登場してくる「アマレクとの戦い」のときから、いくつかの重要な場面です。

彼は「モーセの従者」であることに最後まで徹していったのでした。そこに彼がモーセの死後、神の召しを受けて立たされて行った原点があるといえます。

「謙遜と忍耐とは愛の成長の確証である。謙遜だけが忍耐と愛とを結合させる」とのウエスレーの言葉のように、現代の若き「従者」たちが謙遜と忍耐を通して「主のしもべ」となるホーリネスの祝福を期待し、祈らずにはおられません。

しかもこのことは、その用語が示しているように、主と「同じ姿に造り変えられていく」ところに、大きな慰め、また希望があります。自分の思い通りにとか、あの人のように変えられていくのではありません。私たちが愛し、罪と滅びの中から救い出して下さったそのお方、否、罪の性質までも潔め、私たちの内に宿り、住み、支配して下さっているこのお方と「同じ姿に造り変えられていく」とは、何という過分の恵みでしょうか。

私たちの心と生活に距離がある限り、ホーリネスは祝福とはなりません。聖霊の御助けによって、心と生活が生きて結合されていくとき、ホーリネスの実が結ばれ、主の栄光が証しされて行きます。

ある時はモーセを思う余り、主の霊を受けて預言した者たちを「さし止めてください」とモーセに進言しました。モーセは「あなたは、……ねたみを起しているのか」(民一一・29)と怒りにヨシユアを導いています。

「ヨシユア記」は、「……の後のことであつた」という書き出して始まり、あたかもモーセの死とヨシユアの過去との訣別を重ねているかの如くです。ヨシユアは「モーセの従者」として再登場させられています。ヨルダン渡航とカナン征服の出来事を通して、ついに「主のしもべ、スンの子ヨシユア」と証しされています(二四・29)。

「従者」の一事に徹してその「心と生活」を造り変えられ、「主のしもべ」ヨシユアとされていったのでした。

さて、この造り変えられていく恵みのみわざは、何にもまして、私たちの「心と生活」にかかわる事柄です。ホーリネスの

「従者」から「しもべ」へ

遅いため、待ち切れずに金の小牛を作つて礼拝をはじめた民の叫び声を「戦いの声」と聞き違えてモーセに報告しました。

「従者」の一事に徹してその「心と生活」を造り変えられ、「主のしもべ」ヨシユアとされていったのでした。

「心と生活の変革」

をみました。ですから「モーセ時代はモーセの死で終わったのではなく、ヨシユアの死をもって

一つの出来事を通して、その生活のただ中で造り変えられて行きました。「幕屋を離れなかつ

よく知られているように、ヨシユアは新約ではイエスと表記されました。「従者」に徹して、「しもべ」へと造り変えられたヨシユアの生涯は、私たちに「しもべのかたち」(「仕える者の姿」)をとられ、十字架にまでいと低く、そのすべてをささげ尽して下さった主イエスのできごとを指し示して余りがあります。

その意味で私たちが、その「心と生活」を「主と同じ姿に造り変えられていく」ということは、主イエスの「しもべのかたち」にあずかるまでに造り変えられていくことにはかなりませぬ。そこに徹して行くと、必ずや主の栄光が輝き出すはずす。



★第6回聖化大会のお招き★



聖化大会実行委員長
チャーチオブゴッド川崎南部教会牧師

伊藤 昭吉

聖霊の流れの中で

この川が流れて行く所はどこでも、そこに群がるあらゆる生物は生き、非常に多くの魚がいるようになる。この水がはいると、その水がよくなるからである。この川がはいるところではすべてのものが生きる。
(エゼキエル47・9)

第六回聖化大会の開催にあたって、冒頭のみことばが私の心にしきりに通っております。

日本聖化交友会が発足したのは一九八五年十二月二日(月)でした。第一回聖化大会を持ったのが翌年の一九八六年十一月です。そして今回で六回目を数えるのですが、その間、志を同じくする動きが各地域に起こされ、JHAと連動しながらホーリネスの宣証を展開して参りました。関東聖化交友会はこのような流れの中から再編成されました。今大会はJHA関東としての最初の大会になります。

JHAの目的はその規則にも見られるように「聖書の聖化の信仰の宣証、究明、普及を目指す」ことにあります。このため実際的な運動は現在のところ聖化大会と機関誌の発行です。その中で聖化大会は大きな位置

を占めているといえます。毎年十月の第四週は「聖化大会」の週として定着し、参加者も年々増えてきました。内容も年々うごくと充実し、セミナー、聖会、シンポジウム、神学生の交歓会、神学校教師の交歓会、そして一昨年から婦人信徒大会も加えられました。

しかし、聖化大会がお祭りの花火のように終わってはなりません。この川が流れて行く所はどこでも、そこに群がるあらゆる生物が生きたる……とあるように、ホーリネスの証が参加者が連なる教団、教会にそして個人にいたるまで、丁度大きな川から分れた支流がさらに分岐して小川となり田園を潤し、実をみのらせ、そこに生息するあらゆる生物に生命を与えるようにこの聖化大会も最先端にある教会の中に聖霊によるすばらしいみ業を拝するようになり、リバイバルの原動力となるように願ってやみません。

幸いにも、日本の各地域にこの流れが浸透しつつあることは喜ばしい次第です。願わくは今大会がそのような位置づけの中の大会となり、栄光を拝するものとなるようにと祈っております。諸師、諸兄弟の御参加を待ちつつ。

第6回聖化大会

主講師 ■ ジョージ・E・フェイリング博士
のプロフィールと著書紹介

日本ホーリネス教団平塚教会牧師

沼 慎 二

ジョージ・E・フェイリング博士のプロフィール

カナダ生まれの米国育ち。イースタン・ビルグナム大学及びホートン大学に学び、一九四〇年優等生でB・Aの学位、更に一九四七年デューク大学でM・Aの学位取得。一九六〇年ホートン大学で名誉法学博士号授与。一九三八年米国ウエスレアン・メソジスト教職授手札。一五年間牧会。一九四四〜四七年セントラルウエスレアン大学及び一九四七〜五三年ホートン大学で、聖書・神学・宗教学を担当。一九六三〜六四年、中近東ペテル聖書ランド旅行講演指導者。教団機関紙ウエスレアン・メソジスト主筆、日曜学校部長総主事、教団本部理事などを歴任。聖書文学・釈義学会員、福音主義出版協会員・副会長。アルタスゲイト聖書研究シリーズの編集理事。ウエスレアン聖書注解の執筆者。カリフォルニア・サテライト聖書学校校長等。

著書『聖潔の道』紹介(要約)

一九七〇年インマヌエル林間聖会講演

I. ホーリネスとは何か? 何故必要か?

A. ホーリネスとは、①聖別即ち神によって神のために選ばれた聖さ、②純潔即ち心の内側の聖さ、③盈満即ち聖霊に満たされた聖さ、④完全さ即ち聖霊により全人的に神のものとなされた聖さである。

B. 人は、①神に従うため、②

公正であるため、③天国で神と共に住むために、聖くあるべきである。

II. ホーリネスはいつ我らのうちに成るか?

A. 神の目的と備え

①神の唯一の目的は、人を聖化する事。②人の聖化の全過程が、カルバリの十字架で、神により完全に備えられた。

B 信仰的経験としてのホー
リネス
新生は聖化の第一歩（第
一の転機）とその後の信仰
の成長に聖化が伴う。

①聖化は神の命令（レビ19
・2）及び約束（ルカ1・
73・75）、②ギリシャ語の
アオリスト時制に示される
明確な一回限りの行動的経
験（ロマ12・1）、③多く
のキリスト者の個別的宗教
経験である。

C 転機の経験の時期・程度
など

①義認後直ちにも、又死の
瞬間にも、②ある人には画
期的・劇的・転機的に、あ
る人には漸時的に、③信仰
者は、死ぬ時栄光に移され
る程の円熟に達する。

D 第三の転機としての栄光
栄化はキリスト者の救い
の究極の姿で復活の際に神
に似る者の完全と美が成る。
III・聖徒の訓練としてのホー
リネス

A キリスト者は、主の懲戒
（教え・叱責・鞭）により精
練され聖化へ導かれる。

B 主の懲戒における慰め、
①神の愛の確かなしるし、
②苦痛に耐えるための神の
子めの警告、③誰もが受け
る普遍的経験。

C 主の懲戒への正しい態度

①軽んじず、②気落ちせず
③忍ぶこと。

D 主の懲戒の祝福、①服従
と充足の深化
②前進と飛躍、③真の善良
の獲得。

IV・聖潔の道——三重の贖いの
行程——

聖潔の道は、汚れた者が通
り得ず（イザヤ35・8）、その
道は細い（マタイ7・14）。そ
れ故、自らきよくなるように
努め（ヘブル12・14）るほか
ない。この聖潔の道は、キリ
ストによる三重の贖いの行程
であり、キリスト者の完全即
ちキリストの如くせられる為
の全行程である。

人は自然的生における罪の
副業（全的墮落）とキリスト
にある聖化の副業を持つ。こ
の二者間に聖潔の道が展開し
ている。しかも罪の副業の側
に、贖主イエスの受肉による
恩寵として置かれ、人はこの
先行的恩寵の中で認罪・回心
・赦罪に導かれ、新生して罪
の贖いを得る。次いで心の純
潔を得て深めの贖いに与かる。
更に身体の復活に及び体の贖
いに与かり、聖潔が完成する。

地域だより

九州聖化交友会

書記・國重雅治

日本聖化交友会が標榜するき
よめの大会を九州においてもと
かねがね願っておりまして。

そのようなおり一九八八年に
日本聖化交友会は会長本田弘慈
先生他二名の先生方を派遣し、
日本イエス・キリスト教団福岡
教会において大会を開催してく
ださいました。翌一九八九年に
は第二回の聖化大会を本田弘慈
先生他二名の先生方を派遣し、
ナザレン教団熊本教会において
開催していただきました。二回
の大会とも、夜の聖化集会と午
後のセミナーで、きよめを聖書
から学び非常に好評でした。

この二回の大会の後、きよめ
の信仰を同じくする九州内の牧
師方から、関東・関西同様九州
にも聖化交友会をとの要望があ
りました。一九九〇年六月に福
岡市の郵便貯金会館に本田弘慈
先生、岸田馨先生にご足労願ひ、
九州各県から十名の牧師が集ま
り日本聖化交友会の説明を聞き、
九州聖化交友会の発足について
懇談しました。出席者全員が九
州聖化交友会の結成を賛成され
ましたので直ちに懇談会を設立

総会にし、会長にナザレン熊本
教会牧師磯崎国和先生を選出し、
役員を決め、会則を日本聖化交
友会にならって定め発足に至り
ました。

その年の十一月に九州聖化交
友会としての第一回大会をナザ
レン教団熊本教会において本田
弘慈先生、竿代忠一先生を講師
にお招きしました。九州全域か
ら二夜の聖化大会には百名を越
える参加者で、午前の婦人大会
午後のセミナーも盛会でした。
会員数は九州内のきよめ派七教
団二単立教会から四十二名です。
年を重ねる毎に、会員は増加す
ることでしょう。

九州に様々な超教派の大会・
聖化が開催されていますが、聖
化交友会では、聖書のホーリネ
スを学ぶセミナー、きよめの説
教が語られる大会の二本柱をも
つて、今後九州全域にきよめの
宣証活動を進めたく願っていま
す。最後に私見ですが、関東関
西の講壇に立たれる世界的なき
よめの説教者をお招きするこ
とも願っています。

第二回・九州大会

日時 11月20日(水) 21日(木)
会場 ナザレン熊本教会

講師 本田弘慈 先生
小林和夫 先生

東海大会

- 日時 10月24日(木)
- 会場 活けるキリスト—妻・名古屋教会
- テーマ:「今、輝いて生きる」
—現代におけるきよめ—
- 講師: G. フェイリング師

大阪大会

- 日時 10月25日(金)
- 会場 日本フリー・メソジスト教団
大阪日本橋教会
- 内容 公開講座「ウエスレー神学の特質」
聖会「きよめの実践」
- 講師 G. フェイリング師

総務リポート

▼「聖化」第12号をお届けします。
本号は「聖化大会」の御案内
を中心とした内容のものです。
関東はもちろんのこと、全国各
地で開かれる聖化に、きよめを
慕い求める多くの方々が集ま
れ、恵みの御業がなされること
を大いに期待しています。(編)